

ひまわり荘と豆腐屋と

劇団アクトライ

劇団アクトライ旗揚げ公演

「ひまわり荘と豆腐屋と」

脚本・演出…清水大

公演日

十月十日(月・祝)

長岡市中央公民館 小ホール

八月二七日…脱稿

登場人物・キャスト

・黒崎會長…樋口

下宿人、大学生

・枝野成…さとし

下宿人、二十代

・豆岡玄…まつつ

下宿人、三十代、商社勤めのサ

ラリーマン。

・村上クミコ…藤原ゆずき

下宿「ひまわり荘」の大家、九

月三日生まれだからクミコ。

・ジョニー…あやや

豆腐屋を経営している外国人。

詳細は不明。

*元ネタは「波乗りジョ

ニー」

●備考

・とにかくテンポがよくお願いします。それと、二人とかで会話しているとき、周りの人の反応も。

例えば、豆岡とクミコが穀物の話してる時に、「豆」という単語が出てきたら二人をチラ見するとか。

場面：下宿「ひまわり荘」

真ん中のテーブルに、黒崎と豆岡が座り、談笑している。

談笑の内容が聞こえる必要はないが、聞こえても違和感の無いような内容で。場合によっては、音楽を掛けておいてもいい。

開場時からずっと談笑しているのも個人的には好み。

この場合、途中で談笑している人が変わってもいいし、ウケを狙ってもいい。

下宿の中は、真ん中の大きなテーブル以外にも小物が多いが、家具はあまりない印象。上手奥に階段、下手奥に台所や風呂・トイレ、大家さんの村上の部屋などに通じる廊下、上手手前に玄関がある。

これらの大道具は実際に用意しなくてもいいが、想像を膨らませて自由に舞台設計をして、小道具類も自由に配置して欲しい。

玄関には黒崎と豆岡の靴が置いてあり、スリッパも数足用意されている。

この玄関で、基本的に靴を履き替えスリッパになる。

時間帯は休日（日曜日か祝日で）の昼で、村上は買い物に出掛けている。

枝野は、アパート裏にある枝豆畑の様子を見に行っている。

黒崎　　そういえば、今朝の新聞見ました？

豆岡　　いや、まだ。何で？

黒崎　　載ってましたよ、アレ。

豆岡　　え、ホント？

黒崎　　（新聞を差し出して）見ます？

豆岡 見る見る。

豆岡、新聞を受け取り適当にパラパラめくる。

豆岡 何処？

黒崎 最後の方です。

豆岡 何だ。

豆岡、新聞を裏返してめくっていく。

豆岡 あ

黒崎 ありました？

豆岡 これか。

黒崎 (身を乗り出して新聞を見て) あ、そうですそれです。

豆岡、しばらく新聞記事を読む。

豆岡 ふうん、やっと新聞でも載り始めたか。

黒崎 やっぱり、豆岡さんはもつと前から知ってたんですか？

豆岡 まあ、仕事でね。

黒崎 さすが国際派。

豆岡 いや、俺なんて殆ど国内よ。

黒崎 そうなんですか？

豆岡 大体俺、英語話せないし。
黒崎 あゝ
豆岡 そういや、黒崎君は話せるの？
黒崎 英語ですか？
豆岡 そうそう。
黒崎 これでも一応、現役ですよ。
豆岡 っていうか、英語の講義ってさ、今どんな感じなのよ。
黒崎 いや別に、普通ですよ。
豆岡 ん、そう？
黒崎 そうですよ、別に普通に読んだりしてますよ。
豆岡 ああ、そうなんだ、へえゝ
黒崎 豆岡さんはどうでした？
豆岡 え？
黒崎 いやほら、大学の英語ですよ。
豆岡 ああ。
黒崎 あんまり変わんないんですか。
豆岡 そうねえ、まあ俺、苦手だったしね。
黒崎 あゝ
豆岡 あんまり記憶にないかなあ。
黒崎 そうですか。
豆岡 結構サボってたしね。
黒崎 やっちゃいますよね、苦手だと。
豆岡 だよね。黒崎君は？

黒崎 僕は、そうですね、たまに経済学サボりますよ。

豆岡 け、経済！

黒崎 ええ、経済です。

豆岡 そうかあ、実は俺、いまそれ勉強中なのよ。

黒崎 あ、そうなんですか？

豆岡 なんかねえ、昇進するには経済学が必要だーとかなんとか言われて。

黒崎 凄いですねー。

豆岡 いやいや、面倒臭いだけだよ。

黒崎 やっぱり、商社はみんなそんな感じなんですか？

豆岡 さあね、大体俺の上司だって、ちゃんと理解してんのか怪しいもんだし。

黒崎 いますよね、そういう人。

豆岡 ちよっと、むかつくよね。

黒崎 ええ。

枝野、上手手前（玄関）から登場。

いかにも農作業してきました、みたいな格好（麦わら帽子にタオルみたいな）だけど、足はサンダル。

ども〜

お疲れさまです。

どうだった？

枝野 別に、いつも通りでしたよ。（サンダルからスリッパに履き替えようとして）うわあ！
二人 どうしました！？

枝野 いや、足に虫とか土とか。

黒崎 あゝ

豆岡 サンダルで出るから。

枝野 だって、めんどくさいんですもん。

黒崎 とりあえず、タオルとつてきますね。

黒崎、下手奥（廊下）へ退走って退場。

枝野は玄關にとりあえず裸足のままで座る。

豆岡 しかし、お疲れさまです。

枝野 いえいえ、なんのこれしき。

豆岡 凄いですね。

枝野 ですよね、もう泥だらけ、虫だらけで。

豆岡 雑草とかどうでした？

枝野 あー、結構生えてましてね。少し抜いときましたけど。

豆岡 それはどうも。

枝野 いえいえ、ほんと少しですから。来週はみんなで草刈りですね。

豆岡 あ、やっぱりもうそんな時期ですか。

枝野 暑いですしね。

豆岡 暑いですよね。

黒崎下手奥（廊下）より登場。

黒崎 持ってきましたよ。
枝野 あ、どうも。

黒崎、枝野にタオルを渡す。

枝野 すみません。

黒崎 いえいえ、枝野さんこそお疲れさまです。大変でした？

枝野 まあ、ちよつと草抜いてたらさ。

黒崎 しかし、よくそれで登れましたね・

枝野 まあ、慣れてますから。

豆岡 さつきさ、来週みんなで草刈りしようって言ってたんだけど、どう？

黒崎 あく、どうだろ。後で予定確認してみますけど。

豆岡 出来れば空けといて欲しいな。

黒崎 分かってますよ。

枝野、足を拭き終わりスリッパに履き替える。

枝野 ふう、すつきりした。

黒崎 あ、じゃあタオル

枝野 いいよ大丈夫、自分で洗うから。

黒崎 そうですか。

枝野、下手奥（廊下）に退場。

豆岡 そろそろクミコさん帰ってくるかな？

黒崎 あー、そうですね。豆岡さんどうします？

豆岡 どうするって？

黒崎 ああいや僕、スケジュール見てきますから。

豆岡 ああ、それなら俺は、しらなくはここにいますよ。

黒崎 そうですか、では。

黒崎、上手奥（階段）へ退場。

ほとんど同時に枝野が帰ってくる。

枝野 あれ、黒崎君は？

豆岡 ああ、何か予定見に行きましたよ、来週の。

枝野 草刈？

豆岡 ええ、多分。

枝野 豆岡さんこそ大丈夫なの、仕事？

豆岡 俺は大丈夫。ある程度自由に休み取れるし。

枝野 へえ、いいですねえ。

豆岡 そういえば、枝野君はよく休日もないけど、やっぱ忙しい？

枝野 そうですねえ、最近はまだある程度休めますけど、大型の発注があるとやっぱり。

豆岡 大変だね、納期があると。

枝野 豆岡さんはそういうの無いんですか？

豆岡 ん、むしろ俺は作るより売るほうだし。

枝野 ああ。

豆岡 逆に急かす方かな？
枝野 勘弁して下さいよ。

村上クミコ、玄関（上手手前）から登場

クミコ ただいまー。

枝野 あ、おかえりなさい。

豆岡 お疲れ様です。

クミコ もうね、やっぱり特売日は大変ねー

豆岡 混んでました？

クミコ 混んでるとかもうそういう次元じゃなかったわ。

枝野 大変でしたね。

豆岡 ここら辺の商店街は賑やかですしね。

枝野 ほんと、スーパーとか無いですしね。

クミコ そういえば、ジョニーさんまだ来てないの？

豆岡 んー、今日はまだですね。

クミコ やっぱり混んでるのかしら。

枝野 そろそろだとも思いますけど。

豆腐屋の笛の音が聞こえてくる。

三人 あ！

ジョニー、上手前方（玄関）から登場。
いかにも豆腐屋の格好で。

ジョニー まいど、ジョニーです。

クミコ あ、どうも。

三人 お疲れ様です！

ジョニー お、皆さんお揃いで。

豆岡 今日はほら、日曜日だから。

枝野 みんな休みなんですよ。

ジョニー そういえば、会長さん言っていました。暑い日曜日だから、特売日だって。

枝野 意味分かんないけどね。

豆岡 熱くてみんな外に出ないから？

枝野 確かに、まだ七月なのになんか暑いですね。

ジョニー 日本人の感覚、未だによく分かんないです。

クミコ まあ、いろんな日があるからね。今日はいくらなの？

ジョニー（某通販会社社長風で）よくぞ聞いてくれました、奥さん！ さて、本日はこの沖縄県産にがりで作った特製豆腐、普段はちよつとお高い三〇〇円ですが、本日に限りまして、なんとなんと、まさかの半額にてご奉仕！そしてさらに、今お買い上げの方に、こちらのジョニー特製豆腐をなんとお値段そのままでお付けいたします！ さらにさらに、本日五〇〇円以上お買い上げの方には、こちらの沖縄県産にがりをお付けいたします！ さあ、今すぐお買い上げください！

クミコ そうねえ、じゃあその豆腐、4つ貰おうかしら。

ジョニー ありがとうございます！

豆岡　ちよつと、買ひすぎじゃないですか？

クミコ　いいのよ、だってこれ全部味噌汁にしちやっても、あなたちすっかり食べちやうじゃない。

枝野　まあ、そうですね。

クミコ　味噌汁以外にも色々作れるし、今日の夕ごはんは豆腐料理ね。

クミコ、豆岡と雑談する

枝野　しかしジョニーさん。

ジョニー　はい？

枝野　テレビの見過ぎじゃないですか？

ジョニー　そうですね？

枝野　まあ、口調までそっくりだったし。

ジョニー　でも、こっちの方が皆さん面白がってくれてよく売れるんですよ。

枝野　まあ、外国人でしかも豆腐屋なんて珍しいですからね。

ジョニー　そうですね？

枝野　そうですね。あ、ところでちよつと聞きたいことがあるんだけど。

ジョニー　はいはい？

枝野　その、大豆つてさ、いつごろ収穫なの？

ジョニー　ああ、そうですねえ。多分秋頃だと思いますけど。

枝野　ふうん。

ジョニー　まあ、僕も育てたこと無いので分かりませんが。

枝野　あれ、そうなの？

ジヨニー いくら豆腐屋だからって、大豆の育て方までは分かりませんよ。

枝野 そう？

ジヨニー 育てるんですか、大豆？

枝野 え、いやいや、そんな事ないですよ。

ジヨニー そうですか。

枝野 ええ、第一、育てようにも土地がないですし。

ジヨニー あー、たしかに下宿じゃ。

枝野 庭もないしね。

ジヨニー ま、また何かあれば、店まで来てくださいよ。

枝野 はーい。

ジヨニー それではー

ジヨニー、上手手前（玄関）から去る。

去るときに例の歌「北の町から南の町まで」を歌いながら。

クミコも殆ど同時に下手奥（廊下）に去る

枝野 いい人ですよね、ジヨニーさん。

豆岡 だよね。

暗転。

暗転できないような会場の場合は、音楽とか流して、全員で一斉に動くことで転換中であることを表すなど工夫する。

場面…「ひまわり荘」夜

夕飯が終わり、豆岡が風呂に入っている。

居間には誰もいない。

クミコが上手奥（階段）から登場するが、すぐに止まり後ろを振り返る。

クミコ（二階に向かって）そういえば黒崎さん！

黒崎（声）はい？

クミコ 洗濯物、出しましたか？

黒崎（声）あ、すいません、まだですー！

クミコ 早めに出さないと、洗濯しちやいますよー！

黒崎（声）すぐ行きますー！

クミコ、階段を下りてくる。

それと同時に、枝野がジャージ姿で下手奥（廊下）から出てくる。

お互いの目があつたところで台詞へ、ただし止まらず歩き続ける。

二人 あ、どうも。

クミコ お風呂でしたか？

枝野 ええ、今は豆岡さんが。

クミコ 洗濯物出しておきましたか？

枝野 ああはい。私だけでしたが。

クミコ そうでしたか、それでは。

枝野

クミコは下手奥（廊下）へ、枝野は上手奥（階段）へそれぞれ退場。
しばらく無音。

その後、黒崎がジャージ姿で上手奥（階段）から登場。

黒崎 やばいー、遅くなったー。

黒崎そのまま走って下手奥（廊下）へ退場。

先程と同じく、しばらく無音。

豆岡（ジャージ姿）と黒崎が二人で下手奥（廊下）から登場。

黒崎 ということは、豆岡さんも？

豆岡 そうだねー、まあ俺も、若い頃はね。

黒崎 へえ。

豆岡 何か？

黒崎 いや、なんか意外だなあって。

豆岡 えそう？

黒崎 そうですよ。いや、ホント。

豆岡 そんなことないって。大体俺だってそんなすごくないよ。

黒崎 またまたー

と、そんな感じの他愛もない（というか中身の無い）会話。
その会話の最中に、枝野が上手奥（階段）から登場。

枝野 あ、どうも。
二人 どうも。

なんとなくそのままの流れでテーブルに座る。

豆岡 あ、コーヒー淹れてこようか？

枝野 あ、頼んでいいですか。

黒崎 僕のもお願いします。

豆岡 じゃあ行ってきます。

豆岡、下手奥（廊下）に退場。

枝野 そういえば黒崎さん。

黒崎 はい？

枝野 どうだった、来週末。

黒崎 ああ、空いてました。

枝野 あ、そう？

黒崎 ええ、あでも、土曜日はバイトが入ってて。

枝野 あ、分かった。日曜ならいいんだよね？

黒崎 ああはい。今のところ空いています。

枝野 じゃあ日曜は草刈にするか。

黒崎 結構伸びてたんですか？

枝野 うん。

黒崎 この前刈ったばっかりなのに。
枝野 夏だしね。伸びるの早いよ。
黒崎 かなり増えてます？
枝野 うん、かなり増えてる。
黒崎 うわあ、大変そう。
枝野 まあ、三人でやれば直ぐ終わるよ。
黒崎 最近運動不足なんですよ。
枝野 そうなの？
黒崎 ええ。
枝野 でも、バイトしてるんでしょ。
黒崎 そりゃそうですけど、あんまり体動かさないうんですよ。
枝野 あれ、肉体系のバイトじゃなかったっけ。
黒崎 ああ、それは辞めました。
枝野 あ、そうなの？
黒崎 というか、会社が潰れました。
枝野 え？
黒崎 ほら、不景気ですから。
枝野 ああ、そうだな。
黒崎 枝野さんは大丈夫なんですか？
枝野 あー、まあ今のところは大丈夫。
黒崎 そうなんですか。
枝野 ああ、だが原価がなあ。
黒崎 材料のですか？

枝野 そう、後は取引先が潰れたりとかな。
黒崎 大変そうですね。
枝野 ま、多分なるとかなると思うけど。

豆岡、コーヒーを持って下手奥（廊下）から登場。
豆岡がコーヒーを配る。

豆岡 お待たせ
枝野 あ、どうもです。
黒崎 ありがとうございます。

三人でコーヒーを飲みながら、

枝野 あ、豆岡さん。
豆岡 はい？
枝野 草刈は来週の日曜で良かったですよ？
豆岡 ああうん、大丈夫。
枝野 じゃ、そういうことで。
黒崎 クミコさんは大丈夫ですかね。
枝野 え？
黒崎 いや、三人で草刈ってたら見つからないかなって思っ
豆岡 ん、まあ、大丈夫じゃない？
黒崎 そうですかねえ。

枝野 だって、今までだって俺ら見つかってないし。

豆岡 それに、植える時だってほら、結局見つからなかったじゃない。

黒崎 まあ、そうでしたけど。

枝野 しかし、あの時はちよつとひやひやしたね。

黒崎 ああ、掘り返してるときですね。

豆岡 そうそう、あの時はやばかったね。

枝野 なんとか、雑草を抜いてるって事で誤魔化したし。

豆岡 それもちよつと苦しかったけどな。

黒崎 なんとか、夏まで持ちこたえましたよね。

枝野 これで半分ってとこか？

豆岡 後二ヶ月くらいで収穫のはずだけど。

枝野 ホント、苦労しましたよね。

黒崎 ですよ〜

クミコ、下手奥（廊下）から登場

クミコ あら、みんなそろってどうしたの？

三人 ！！！！

クミコ、椅子を持ってきて、

クミコ 混ぜて貰ってもいいかしら？

豆岡 ええ、もちろんですよ。

黒崎 どうぞどうぞ。

クミコ ごめんね、邪魔しちゃった？

豆岡 いえいえ別に、そんなにたいした話してた訳じゃないですし。

黒崎 あ、なんならクミコさんの分も煎れてきましようか？

クミコ え？

黒崎 コーヒー。

クミコ ああ、じゃあ、頼んじゃおっかな。

黒崎 あ、じゃあ僕、煎れてきます。

黒崎、下手奥（廊下）へ退場

クミコ あ、それ今日の新聞？

枝野 ええ、そうですけど。

クミコ なんか、色々上がってるんだって？

枝野 ああ、物価ですか？

クミコ そうそう、凄いと思わない？

豆岡 まあ、僕の会社でも色々騒いでますよ。取引先と揉めたり。

クミコ あら、そうなの？

豆岡 ええ、なにせ仕入れ値を値上げすることになりますからね。

クミコ ああ、コーヒー豆も値上がりするんだっけ。

豆岡 そうですね、来月から。

クミコ さらに苦しくなるわね。

豆岡 そんなに大変なんですか？

クミコ ええ、なかなか。

枝野 もしかして、その、値上げとかしちやったりします？

クミコ え？

枝野 いやその、家賃とか。

クミコ ああ、そうね。

二人 え！

クミコ なんて、冗談よ。

豆岡 よかったあ。

枝野 今のから上がっちゃったらもう、どうなることやら。

クミコ まあ、厳しくなるまでは頑張るわよ。

枝野 お願いします！

豆岡 というか枝野君とこも、そんなに大変なの？

枝野 ああまあ、不景気で色々と。

クミコ え、そうなの？

豆岡 何処も大変なんですよ。

枝野 材料も上がるし、取引先は潰れるしで。

クミコ あらゝ

豆岡 大丈夫ですか？

枝野 まあ、なんとか持ちこたえています。

クミコ 大変なのねゝ

枝野 そうですね。

クミコ この調子で、米とかそういうのまで上がっちゃったらどうしましょう。

豆岡 まあ、今のところ大丈夫だとは思いますが。

枝野 上がってるのは殆ど輸入の奴ですし。

クミコ 小麦とかは大丈夫なのかしら？

豆岡 あー、微妙ですね。穀物系は。

クミコ え、上がるの？

豆岡 いや、詳しくは分かりませんが。

下手奥（廊下）から黒崎登場

黒崎 お待たせしました。

クミコ あ、ありがとう。

黒崎、牛乳も置く。

クミコ、コーヒーに牛乳を入れる。

豆岡 材料も結構上がってるの？

枝野 まあ、鉄とか、あと油も。

豆岡 ああ、油。

黒崎 ガンリンとかもですかね？

枝野 それもそうだし、後重油とかそんなのも。

黒崎 上がるのか？

クミコ 何、黒崎さん、車でも買うの？

黒崎 まあ、買ってみたいなあー、とは思ってますけど。

枝野 やめとけやめとけ、貯めといたほうがいいぞ、金は。

黒崎 そうですか？
豆岡 まあ、最近厳しいからね。
クミコ ここも厳しいのよ。
黒崎 え、じゃあ家賃とか？
枝野 上がるぞ上がるぞ。
黒崎 え！
クミコ ちょっと、枝野さん！
枝野 ははは、冗談冗談。
クミコ ちゃんと頑張ってるんですから。
豆岡 しかし、円高も進んでるしね。
黒崎 あー、七十五円でしたっけ。
豆岡 そうそう。
クミコ 食材が上がるのがウチとしては一番厳しいけど。
豆岡 食材？
クミコ ほら、さっきも言ったじゃない。
枝野 あ、穀物系？
クミコ そうそう、お米とか小麦とか。
豆岡 ト、トウモロコシとかもですよね。
クミコ そうそう、あ、お豆腐もか！
三人 え？
黒崎 と、豆腐？
クミコ そうよ、大豆とか、そういうお豆も穀物系よ？
黒崎 ま、まあそうですけど。

クミコ 何、黒崎さん、知らなかったの？

黒崎 いやあ、まあ。

クミコ 常識よく、これくらい。

黒崎 は、はあ。すみません。なんか、ほら、実感がないと、ねえ？

枝野 え、ああ、まあ、そうだな。目に見えないし。

黒崎 大豆の形とか味とかしないですもんね。

クミコ 値上がりって止まらないのかしらねえ。

さあ、ここから古き時代に突入しますよ。

ちなみに何も調べずに書いてるので、間違ってるかもしれません。が、それはそれで登場人物の認識が間違ってたという事で。

本当に、実際に体験してるかのように。

枝野 昔はマックも百円でお釣りが来たのにな。

黒崎 え、そうなんですか？

枝野 そうよ、ハンバーガーは、確か六十円だったっけ。

黒崎 え、ウソ！

豆岡 あれ、八十円じゃありませんでした？

枝野 ん、そうだった？ クミコさん分かります？

クミコ さ、さあ。私あんまり使わなかったから。

豆岡 まあ、そうでしょうね。

枝野 チーズバーガーが百円マックにありましたよね。

豆岡 ああ、それは覚えてる。

黒崎 そんな時代があったのか

豆岡 そういえば、そんな歌もあったね。

クミコ 中島みゆきでしょ？

豆岡 そうそう。

枝野 え、俺知らないや。

豆岡 まあ、昔の曲だしね。

クミコ 懐かしいなあ

豆岡 なんですしたっけ、あの、「そんな時代もあったねと〜」って。

クミコ そうそう、えーと、なんだっけ。

一応書いておくと、中島みゆきの「時代」です。いい曲ですよ〜
もしかしたら、JASRACにお金払わなきゃ駄目かも（無料公演ならOKですが）。

豆岡 忘れますよね、昔の事は。

クミコ そうねえ。

黒崎 バブルなんてのもあったんでしょ？

豆岡 ああ、そのせいで俺苦労したのよ。

黒崎 え、そうなんですか？

豆岡 崩壊したのが今から大体二十年くらい前だからなあ。俺の上司が、丁度バブル入社組なのよ。

クミコ あー、それ困るよね。

豆岡 ですよ。

黒崎 バブル入社組って、何か悪いことでもあるんですか？

枝野 そりやお前、あの頃は誰でも好きな会社に入れたんだぞ。

豆岡 内定出た奴にハワイ旅行、なんて会社もあったな。

クミコ 豪華なディナーとかもあったんでしょ。

黒崎 ええ、信じられない。

豆岡 今は就職難だもんね。

黒崎 僕なんて、小学校でもうデフレとかインフレっていうの、習いましたよ。

枝野 え、今の小学生はそんなの習うの。

黒崎 まあ、そうですね。

豆岡 黒崎君が小学生っていうと、値下げ競争の時期じゃないかな？

黒崎 え？

豆岡 いや、ちょうどその頃色々な値段が落ちてね。

枝野 ああ、ハンバーガー六十円なのも、その頃じゃなかったかな。

黒崎 はあく、そのころマックなんて知らなかったからなあ。

豆岡 行ったこと無かったの？

黒崎 まあ、小学生ですから。それに、行きたくても行けなかったし。

枝野 え、何で？

黒崎 いや、ほら、長野の山奥ですから、僕の出身。

豆岡 あ、そうか。

黒崎 実家帰ると、未だに圏外ですもん。

枝野 電波も来ないのか。

黒崎 まあ、山奥ですから。行くのも大変ですよ。

豆岡 何分くらい？

黒崎 そうですね、ここからなら大体、電車で四時間くらいですかね？

クミコ え、四時間もかかるの！

黒崎 さらに駅から家まで車で行くんで、その分も足しますけど。

クミコ あらう、遠いのね。

黒崎 だから、車が欲しいな、なんて。

豆岡 まあ、新潟だって車無いと生活できないしね。

黒崎 そうですよ、バスもあんまり走ってないし。

枝野 というか高いよな、バス。

クミコ この前値上げしたしね。

黒崎 バスといえば、この前ですね、イオン行ったんですよ。

豆岡 はあ。

黒崎 そしたら広すぎてバス乗り場が分からなくて。

豆岡 広いもんね、イオンは。

枝野 大体、無駄な専門店が多いっつーの。

豆岡 殆ど女性向けになっちゃうもんね。

クミコ それで、どうしたの？

黒崎 そう、広すぎてですね、バス停の場所が分からないんですよ。

クミコ ああ。

黒崎 無料送迎バスがあるとか何とか書いてあるのに、肝心の場所が分からなくて。

豆岡 不案内だね。

黒崎 それで、歩いている人に聞いたたら、いやあ、車なのでよく分からないんですって。

三人 あゝ（声を合わせる必要はない）

黒崎 多分あっちが出口なんで、多分あっちだと思います、多分。って言われて。そして、そ

っち行ったら無くて、で、そっち側の人に聞いてみたら、反対側の出口だって。

三人 (笑)

枝野 出口も無駄に多いもんな。

黒崎 出口が一つだけなら、迷いませんでしたよ。

枝野 確かに。

豆岡 まあ、そればかりは車でも、何処に停めたか分からなくなって困るけど。

枝野 ま、免許持っていない俺には関係ないがな。

クミコ ン？ 豆岡さんは免許持ってるんですか？

豆岡 ああ、僕はほら、仕事で車使いますから。

クミコ へえ、あ、そういえば豆岡さん。

豆岡 は、はい？

クミコ 豆岡さんの力でさあ、何とかならないの？

豆岡 と、言いますと？

クミコ いや、だってほら、確か商社勤めじゃないの、ねえ！

豆岡 ま、まあそうですけど、僕別に穀物担当じゃないので。

クミコ あら、そう？

豆岡 はい、残念ながら。

枝野 名前は思いつきり穀物っぽいのに。

豆岡 おい！

クミコ でもまあ確かに、豆岡っていう苗字も珍しいわよね。

豆岡 そうですよ、今までも見たことないですね。

クミコ そういえば、枝野さんもちよっと珍しいですね。

枝野 え、はあ。(豆岡に) え、何がです？

豆岡 苗字ですよ、苗字。

枝野 ああ、枝野っていう。
クミコ そうそう、あんまりいないわよね。
枝野 まあ、そうですね。
クミコ そういえば、黒崎さん。
黒崎 は、はい？
クミコ 黒崎さんも、なんだか豆っぽい名前よね。
黒崎 え？
クミコ いや、黒崎産茶豆って知らない？
黒崎 え、僕の茶豆？
豆岡 そうじゃなくて、その、黒崎ってところが有名なのよ、茶豆。
黒崎 ああ、そうなんですか？
枝野 そっか、黒崎君は長野だもんね。
黒崎 ええ。
クミコ 枝野さんだって、枝についてるしね。
枝野 え、ええまあ。
クミコ なんだか皆さん、豆っぽい名前の方々ばかりだったんですね。
豆岡 え、ええ、まあ、そうですね。
クミコ いやあ、今更気が付きました。
黒崎 そう、そうですね。ははは……
黒枝豆 ははははは……

沈黙

クミコ ……どうしたんです？

三人 え？

クミコ いやなんか、三人してわざとらしく笑ってるし。

枝野 え、いや、そんな事ないですよ。(黒崎を客席から見えるようにつつく) な？

黒崎 え、ああ、はい。(思いつ切り) はっはっはっはっはっは！

クミコ いや、それもつとわざとらしいから。

黒枝 すみません。

クミコ 皆さん。

三人 はい。

クミコ この下宿のルール、覚えてます？

豆岡 え、まあ。

クミコ 大家に対して、隠し事をしない。つての、ありましたよね。

豆岡 はい。

クミコ なに隠してるんですか？

豆岡 え、えーとですね、それは(枝野を見る)

枝野 え、あ、そうですね、えーと(黒崎を見る)

黒崎 え、あ、あの、その(と横を見る)

クミコ 誰もいないでしょ。

黒崎 すみません。

クミコ じゃあ、黒崎さん。

黒崎 はい。

クミコ 何ですか、私に隠してること？

黒崎 えーと、あの、そのですね、えーと、(小声で) コレどうしても言わなきゃ駄目かなあ。

クミコ 駄目です！

だが豆岡と枝野、目で言うなど言っている。
この辺は日常っぽく、かつコミカルチックで。
無理して笑いをとる必要はないですが、集団で怒られてる感じで。

黒崎 ああ、もう。

クミコ なんですか？

黒崎 あのですね、僕達ほら、苗字が豆っぽいじゃないですか。

クミコ そうね、それがどうしたのよ？

黒崎 まあ、最後まで聞いてくださいよ。そこですね、その、トリオ組もうと重ねたんですよ。

黒枝豆 は？

クミコ え？

枝豆 あ、いえ。

黒崎 あの、それですすね、その、まだコンビ名が決まってるなくて。

豆岡 そ、そうなんですすよ。

枝野 大家さんには決まってるから伝えようと思ってて。

クミコ あら、そうなの？

黒崎 え、ええ。だからほら、苗字のことに気がつかれたときには、ちょっと焦ったんですよ。

枝野 そう、そうですよ。

クミコ ふうん。

黒崎 そんな、疑うような目で見ないでくださいよ。

豆岡 本当なんですから、本当に。
クミコ ……ちなみに、どんなコンビ名で悩んでるの？
黒崎 え？
クミコ いやほら、悩んでるんでしょ、コンビ名。
黒崎 あ、ああ、まあ。
クミコ 決めてあげよつか、私が。
黒崎 え、えーと。
豆岡 まあ、いいんじゃない、ねえ？
枝野 え、ええ。
クミコ じゃあ、どんな名前で今悩んでるの？
黒崎 え、えーと（枝野を見て）。
枝野 ほ、ほら、あの、黒枝豆とかどうかなくて、俺言ったんですよ。
三人 え？
クミコ え？
黒豆 い、いえ。
枝野 黒崎・枝野・豆岡で、黒枝豆。
クミコ おお、いいんじゃない？
枝野 でしょ、でも他の二人が、それは無いわかって言うんですよ。
クミコ そうなの？
黒豆 え、ええ、まあ。
クミコ 豆岡さんはどんな名前がいいと思ってるの？
豆岡 え、私ですか？
クミコ そうよ。

豆岡 えーと、ママーとか。

クミコ ママー？

豆岡 流石にコレは無いですよ、忘れてください。

クミコ 言われなくてもそうします。

豆岡 なんかごめんなさい。

クミコ で、黒崎さんは？

黒崎 え、えーと、あ、じゃあ。

クミコ じゃあ？

黒崎 いえ、今豆岡さんが言ったの聞いて思いついたんですけど。

クミコ うん、何？ 言ってみて。

黒崎 そのですね、

クミコ うん。

黒崎 ビーンズ。

「え？」って感じの沈黙

豆岡 ここ、暗転するところ？

枝野 効果音入るところ？

クミコ なんて言うか、その、黒枝豆で、いいんじゃないかしら、ね？

枝野 そ、そうですね、やっぱり。

黒崎 実は僕もそれがいいと思ってたんですよ。

枝野 嘘つけ！

豆岡 まあまあ。

黒崎 あえて枝野さんの案を引き立てるために。
クミコ さて、洗濯に行こうかしら。
豆岡 僕も引き立てるために、あえて否定を。
枝野 しなくていい、そんなの！

黒崎の「実は僕も」の台詞のあたりから、このような会話を続けてどんどん大きく複雑に重ねていって、聞き取れなくなったところで暗転。暗転が出来ない場合は前述のとおりに。
台詞を重ねずに、音楽をフェードインしてきてもよい。

場面・「ひまわり荘」朝

実は数日経っている。

豆岡だけが新聞を読んでいる。

黒崎が上手奥（階段）から下りてきて

黒崎
おはようございます。

豆岡
おはよう、黒崎君。

黒崎、テーブルに向かう。

豆岡
なんか、久しぶりだね。

黒崎
そうですね？

豆岡
だって、もう一週間も会ってないから。

黒崎
お盆でしたから。

豆岡
昨日の夜帰ってきたんだって？

黒崎
ええ、もう今日になってましたけど。

豆岡
そうか。

黒崎
お土産、買ってきましたから。

豆岡
お、期待してるよ。

黒崎、テーブルの上に置いてある麦茶に手を伸ばし

黒崎
これ、もらっても大丈夫ですよ？

豆岡 ああ、クミコさんが淹れてくれたやつだから。
黒崎 了解です。

黒崎、コップに麦茶を注ぎながら、

黒崎 麦茶かー

豆岡 ん？

黒崎 いえ、もう気温は秋みたいですよ。

豆岡 まだ八月中旬なんだけどね。

黒崎 結構涼しいですよ。

豆岡 そうだね。

しばらく沈黙

黒崎 あれ？

豆岡 ん、どうした？

黒崎 今日って、日曜日ですよ。

豆岡 そうだね。

黒崎 今何時です？

豆岡 えーと、まだ六時半だけど。

黒崎 この麦茶、クミコさんが出してくれたんですよ。

豆岡 あ、ああ。俺より早く起きてたし。

黒崎 休みの日には、クミコさん、起きるのが早くないですか？

豆岡 まあ、俺もそう思ったけど。

クミコ、上手手前（玄関）から疲れたように登場。

黒崎 おはようございます。

クミコ おはよう、はあ。

豆岡 どうしたんですか？

クミコ いやね、なんか警察の人がいてね。

黒崎 警察ですか？

クミコ そう、なんか、麻葉の調査に来てるらしいのよ。

豆岡 麻葉？

クミコ この辺の庭とか見てるらしくて、ウチの庭も見ると言うから。

黒豆 はあ。

クミコ とは言っても、ぱっと表からしか見なかったんだけど。

豆岡 そうですか。

クミコ まあ、とりあえず朝食の準備しますか。

クミコ、下手奥（廊下）へ退場

豆岡 麻葉ねえ。

黒崎 それはともかく、庭って。

豆岡 あ、黒枝豆の。

黒崎 バレてないですかね。

豆岡　まあ、道路からは見えないし、仮に調べるとしてもウチの庭だとは中々分からないし。
黒崎　あ、そうですね。

枝野、上手手前（玄関）から登場

枝野　あ、おはよう。

黒豆　え、枝野さん！

黒崎　どうしたんですか、外から？

豆岡　っていうか枝野君、もう起きてたの？

枝野　ああ、なんか、昨日の夜黒崎君が帰ってきた気配で起きちゃって。

黒崎　あ、ごめんなさい。

枝野　あ、いいの別に、音で起きたわけじゃないから。

黒崎　で、でも。

枝野　まあ、それで寝れなくなって、適当に仕事してたらさ、ちよつとほら、例の黒枝豆の件が気になっちゃって。

豆岡　ああ、なんか警察が。

枝野　え？

豆岡　いや、ついさつき警察がこの辺の庭を調べに来たみたいだよ。

枝野　ええ、そうなの？

豆岡　枝野君、というか黒枝豆の畑は大丈夫だった。

枝野　そりゃあ、道路に直接は面してないですから。

黒崎　四方を壁とか柵で遮られてますもんね。

豆岡　そうそう、通れるのはアパート側の出入口だけだしね。

枝野 まあ、面倒くさいから俺はいつも柵乗り越えるんだけど。

黒崎 それで、柵を壊さないでくださいよ。

枝野 大丈夫だって。

豆岡 まあじゃあ、怪しまれたりはしなかったんだね。

枝野 第一、怪しまれても、やってることは単なる農作業ですし。

豆岡 そうだね。

下手手前（玄関）からジョニーが現れる。

ジョニー おはようございます。

黒崎 あれ、ジョニーさん！

豆岡 どうしたんですか？ こんな朝はなく。

ジョニー いやほら、ウチは豆腐屋だから、朝は早い。

豆岡 いや、そういう事じゃなくてね、

枝野 なんて、こんな早くにウチに来たの？

ジョニー ああ、そっちですか。

豆岡 うん。

ジョニー 実は、近所の井戸端会議です、あ、うちの店、豆腐屋だから朝早いんですよ。

枝野 さつきも同じこと言ってたよ。

ジョニー あ、それですね、今朝の警察、聞きました？

豆岡 ああ、麻薬調べてるんだって？

ジョニー そう、怪しいところを調べてるとか、井戸端会議で言っていました。朝早いですよね。

枝野 噂って言うのは、今日の株価より早く伝わるんだよ。

豆岡 それは単に知りたがる人が少ないだけじゃ。

黒崎 まあ、それで、ジョニーさんはどうしたんですか？

ジョニー あ、それでほら、うちの店豆腐屋だから朝早いでしょ。

黒崎 うん、それ四回目。

枝野 あれ、三回目じゃない？

黒崎 え？

豆岡 どっちでもいいよ。それで？

ジョニー その井戸端会議聞いてたら、すっごく怪しい庭があるって話になって。

枝野 ほう。

ジョニー 何処かっていうと、ここの裏なんですよ。

黒枝豆 え？

ジョニー このすぐ裏の、ほら、壁が邪魔になって良く見えない場所あるでしょ。

枝野 あ、ああ。

ジョニー どうやら、そこが凄く怪しいとか何とか行ってきましたから、皆さんに気をつけて欲しい。
くて。

豆岡 そう？

ジョニー そうですよ。もし密売人とか、そういう怪しい人達がいたら、怖いじゃないですか。

豆岡 まあ。

ジョニー だから、気をつけてくださいよ。怪しい人見かけたら、すぐに一一九番ですよ。

枝野 それ消防だよね？

黒崎 怪しい人というよりは、倒れてる人ですよ。

枝野 まあ、途に倒れてる人はある意味で怪しいけど。

ジョニー じゃあ、そっちです。

枝野 一一〇番？

ジョニー そうです。ちゃんと通報してくださいね、僕も怖いので。

枝野 あ、うん。俺達の心配してたわけじゃないんだね。

ジョニー ジョニーは町の平和を願っています。当然、住民である皆さんのことも心配してま
よ。

枝野 ま、分かりました。

豆岡 ちゃんと通報しますから、安心してください。

ジョニー そうですか、それじゃあ。

ジョニー、下手手前（玄関）から去る。

黒崎 いい人なんですけどね、ジョニーさん。

枝野 やっぱりちよっと、日本語に不自由なんじゃないか。

黒崎 しかし、裏の畑に泥入りしている怪しい人なんているんですかね？

枝野 俺が見た限りでは、荒らされた形跡はなかったけどな。

豆岡 ふくむ、まあ、とりあえず朝御飯食べてから考えましょう。

黒崎 そうですね。

クミコ（声）朝御飯出来たわよ

黒枝豆 はくい

三人、下手（廊下）に退場

場面：「ひまわり荘」夕方。
ちよつと騒がしい感じ。
黒枝豆がいる。

黒崎 どうしましょうか。

豆岡 さあ？

枝野 どうしようもないんじゃない。

黒崎 そんなあ。

ドアを叩く音。

黒崎 ヤバイっすよ。

豆岡 どうしようか？

クミコ、下手奥（廊下）から登場

クミコ なに、どうしたの？

黒崎 いや、なんていうか。

豆岡 その、暴動？

クミコ え？

黒崎 えーとですね、その、なんていうんだらう。

枝野 あーもう、これしかないか！

枝野、テーブルを上手手前（玄関）に。
いきなり前触れもなくやること。

クミコ え、枝野さん？

枝野 これで、誰も入ってこれない。

黒崎 やりすぎですよ、流石に。

豆岡 落ち着いてくださいよ、枝野さん。

枝野 なんで近所の人が沢山集まってきてるんだよ。

黒崎 いや、その。

クミコ そうよ、なんでよ。

豆岡 えーとですね、その、裏の庭ですよ。

クミコ 裏の庭？

豆岡 あのほら、柵と壁に囲まれた庭ですよ。

クミコ ああ、あれさり気無くウチの庭なのよね。

枝野 さり気無くって。

黒崎 その庭で、麻薬作ってるんじゃないかって言うんですよ。

クミコ え、作ってるの？

黒崎 な訳無いでしょう！

豆岡 単なる誤解ですよ、誤解。

クミコ でもほら、もしかしたらいつの間にか知らない人が作ってるとか。

豆岡 流石にそれは無いと思いますけど。

枝野 ちよっと見てくださいようか？

黒崎 いや、さっきの玄関を枝野さんが塞いじやったんじゃないですか。

枝野 あっ！

黒崎 今更気がついたように言わないでください。

枝野 いや、つい出来心で。

クミコ 枝野さん！

枝野 はい？

クミコ あのテーブル、枝野さんがやったんですか？

枝野 え、ええ、まあ。

クミコ もー、そんな、立て箆もってどうするんですか！

枝野 すみません。

豆岡 それにしても、近所の方々騒いでますよ。

黒崎 根も葉もない噂なんですけどね。

クミコ どうやったら落ち着くのかしら？

黒茶豆 ……さあ？

クミコ 無責任よ！

黒茶豆 わあ！

クミコ 下宿人なんだから、なんとか解決策を考えなさい！

クミコ、下手奥（廊下）へ去る。

枝野 絶対クミコさんってB型だと思う。

黒崎 僕ね、血液型占いは信じないですよ。

枝野 ああ、そうなの？

黒崎 でもね、B型だけは、絶対自己中だと思います。

豆岡 まあ、それには一応同感する。
枝野 俺も。
黒崎 ん、というか、枝野さんって何型なんですか？
枝野 え、俺A B型だけど。
黒崎 え、ウソ？
豆岡 あ、A Bなんですか。
枝野 え、何、そんなに意外？
黒崎 意外でした。
豆岡 ホント。
枝野 えー、そんな事ないって。
黒崎 で、どうすんですか、ホント。
豆岡 いやもうさ、説得するしか無いんじゃない。
枝野 なんとか説明して。
黒崎 まあ、そうですね。
枝野 じゃあ、黒崎君。
黒崎 はい？
枝野 行っってらっしゃい？
黒崎 え？
枝野 いやなんていうか、ねえ？
黒崎 ねえ、ってなんですか。
豆岡 まあ、頑張って。
黒崎 ちよ、豆岡さんまで。
枝野 ほら、君、男だろ。

枝野 枝野さんものでしょう。

枝野 いいんだよ、大人は。

黒崎 僕だって酒飲めますよ。

枝野 ええい、つべこべ言わずに行って来い。

黒崎をテーブルのところに押し出す。

黒崎 しょうがないなあ。

黒崎、テーブルをどけて上手手前（玄関）から退場。

黒崎（声）あのー、みなさんー

クミコ、下手（廊下）にから登場。

クミコ で、なんか考えついた？

豆岡 いえ、何も。

クミコ ああ、そう。あれ、黒崎さんは？

枝野 あ、いや、その。

黒崎（声）いえ、その、決して怪しい物とかは無かったですよ。

クミコ 黒崎さんの声。

枝野 ああ、外からですね。

クミコ 何で？

豆岡 いや、その、
枝野 それがですね、彼、皆を説得するって行って、外に！
クミコ ええ！ 一人で？
枝野 はい、一応止めたんですけど。

ガヤガヤ音が収まる。

豆岡 あれ？
クミコ なんだかおとなしくなりましたね。
豆岡 どうしたんだろう。
枝野 まさか、黒崎君がみんなに倒されて……
豆岡 いや、それならもっとヒートアップするはずだから、静かにはならない……
クミコ そこ！ 冷静に現状を分析しない！
豆岡 いやでも、ほんと、何ででしょうね。
クミコ え、普通に考えれば、その、説得に成功したとか？
豆岡 まあ、順当に考えればそうですけど、黒崎君に上手くやれるかと言うと。
クミコ ……ですね。

黒崎が上手手前（玄関）から登場。

黒崎 皆さん。

沈黙

黒崎　ちよつとは期待して下さいよ。

ジョニーが上手手前（玄関）から登場。

次の台詞の中で、豆岡あたりがテーブル片付けると良いよね。

枝豆ク　ジョニーさん！

ジョニー　どうもー。

クミコ　どうしたんですか？

黒崎　いや、手伝ってもらったんですよ、説得を。

ジョニー　はい、黒崎さんの味方しました。

枝野　あら、そうなの？

黒崎　ええ、ジョニーさんはほら、ご近所さんと仲いいですから。

ジョニー　まあね。

黒崎　その代わり、ちよつと代償払いましたけど。

枝野　え？

黒崎　まあ、おかげでなんとかまりましたから。

枝豆　あ、ああ。

ジョニー　じゃあ、そろそろ大丈夫でしょう、僕はそろそろ行きますね。

黒崎　あ、はあい、すみません、ありがとうございました。

ジョニー　いえいえ、そんなことより、黒崎さん、宜しく願いますよ。

黒崎　あ、はい。任せてください。

ジョニー、上手手前（玄関）から退場。

豆岡 何、何約束したの？

黒崎 まあ、詳しくは後で。

枝野 いったよ、後って。

黒崎 とりあえず、ほら、しばらく休まさせてくださいよ。

黒崎、上手奥（階段）へ退場。

豆岡 疲れたんかな、やっぱり。

枝野 まあ。

クミコ で、大丈夫なの？

豆岡 ご近所ですか？

クミコ うん。

豆岡 まあ、大丈夫だと思えますけど。

枝野 ジョニーさんもそう言ってたし。

クミコ じゃあ、私は夕飯の準備してきますね。

暗転

場面…「ひまわり荘」夜

クミコだけだテーブル近くにいる。
テーブルの上には皿とか。

クミコ 夕飯よー。

枝豆 はーい。

枝野と豆岡が上手奥（階段）から降りてくる。
二人とも、話しながら席に着く。

豆岡 今日は何ですか？

枝野 もう、疲れましたよ。

クミコ 色々ありましたしね。あれ、黒崎さんは？

豆岡 そういえば、いませんね。

枝野 どうしたんですかね？

クミコ まあ、とりあえず今日の夕飯を。

豆岡 あ、はい。

クミコ じゃーん！

枝豆 え？

クミコ 今日は、枝豆パーティーよ！

豆岡 え、っていうか、こんなにたくさん枝豆。

クミコ なんとこれ、全部タダです！

枝野 ウソ！

豆岡 どうしたんですか？

クミコ いやね、裏にあったのよ。

豆岡 え？

枝野 まさか？

黒崎、上手手前（玄関）から飛び込んできて

黒崎 大変です！

クミコ あら、遅かったわね。

黒崎 あ、クミコさん。

クミコ 何？ なにかあったの？

黒崎 えーと、その（枝野と豆岡を見る）

豆岡 大丈夫だ、黒崎くん。

黒崎 え？

豆岡 君が心配してるのは、ほら、これだろ（と言って枝豆を指す）。
黒崎 は？

クミコ 何、黒崎さんの分もちゃんと残ってるわよ。

黒崎 そうじゃなくて、その、あの、えーと（豆岡を見る）？

豆岡 クミコさん。

クミコ はい？

豆岡 この枝豆って、何処から取ってきたんですか？

クミコ いや、ほら、今日騒ぎになったじゃない、裏の空き地。

豆岡 ああ、そんな事もありましたね。

クミコ だからね、ちよつとまあ、言い返してやろうと思ってね。

黒崎 思つて？

クミコ 裏庭に来たら、枝豆がいっぱいあったから、全部採ってきたのよ！

黒枝豆 えー！

ちなみにこの「えー！」は、黒崎だけが声がでかい。

黒崎 そんな、せっかく約束したのに。

豆岡 え、約束？

クミコ 何、っていうかあなた達、この枝豆知ってたの？

豆岡 っていうか、その、それ育てたの、僕らなんですよ。

クミコ え、そうなの？

枝野 ほら、黒枝豆っていうトリオ組んでたでしょ。

クミコ ああ。

枝野 あれ、枝豆育てるサークル名なんですよ。

クミコ え、何で？

豆岡 いやほら、今穀物が値上がりしてるって言いますから。

枝野 クミコさんに少しでも楽しんでもらおうと思つて、育ててたんです。

クミコ なんだ、そうだったの、ごめんね。

豆岡 いえいえ、元々クミコさんにあげるために育てていた奴ですから。

枝野 本当は、大豆になるまで待つつもりだったんですけどね。

クミコ ありがと、みんな。

ちよつと盛り上がる。

黒崎 あのと、盛り上がってる中、ちよつと申し訳ないんですけど。

クミコ はい？

黒崎 実は、その、その枝豆なんですけど。

豆岡 どうしたの？

黒崎 少しだけ、ホント少しだけなんですけど、あげる約束してたんですよ。

豆岡 え、誰に？

黒崎 あの、ジョニーさんに。

枝豆ク ジョニーさん？

黒崎 ほら、昼間の騒動を収めるの、殆どジョニーさんのおかげですから。

枝野 代償ってそのことだったのか。

豆岡 まあ、枝豆で済んだなら安いほうか。

クミコ じゃあ、ジョニーさんも呼んで夕食にしましょうか？

黒枝豆 え？

クミコ 枝豆はあげられなくなっちゃったけど、一緒に枝豆パーティーしましょうって。

黒崎 そうですね、じゃあ僕呼んできます。

豆岡 おう、急げよ。

ジョニーの笛の音。

黒崎 あ、この音は。

ジョニー、上手手前（玄関）から登場。

ジョニー どうもー。

黒枝豆ク ジョニーさん！

ジョニー あのー、豆腐。

黒崎 それはいいからさ、その、ちよつと寄ってかない？

ジョニー え？

クミコ 今日はね、枝豆パーティーなのよ。

黒崎 ごめんなさいジョニーさん。枝豆、全部料理しちゃって。

ジョニー ああ、あれですか。

クミコ だからさ、代わりに、枝豆パーティー、一緒にやらない？

ジョニー でもほら、豆腐の配達が。

クミコ いいじゃない、ちよつとくらい。

ジョニー うーん、でも。

黒崎 ジョニーさん！

枝豆ク ジョニーさん！

ジョニー ……ま、いいか。

黒枝豆ク やったー

黒崎 さ、さ、ジョニーさん、こっちですよ。

夕飯前の騒がしさな感じ。

クミコ それじゃあ、枝豆パーティー、始めますか。

黒崎 よし、じゃあ、事件解決を祝って。
豆岡 あんまり、祝うことじゃないけどね。
枝野 まあ、ジョニーさんも合わせて五人での食事は初めてですからね。
クミコ それじゃあ、(と言って手を合わせる)

ジョニー以外も手を合わせる。
ジョニー、キョトンとして、

黒崎 ジョニーさん、日本では食事の前に手を合わせるんですよ。

ジョニー ああ、いただきますってやつですか？

クミコ そうよ、よく知ってるわね。

ジョニー いえ、お客さんが、よくいただきます、って言いますから。

豆岡 ああ、たまに店でも言う人いるね。

ジョニー 食事の前に言うのよ、って聞いて、でも、やった事ないんですよ。

黒崎 それじゃあ、やってみましょうよ。

クミコ じゃあ、改めて手を合わせて、

全員、手を合わせる(「パン」といういい音)。

全員 いただきます！

暗転、カーテンコール。

幕